

良米移出禁止

畿南道にては二十日より石拔疎米、其他夾雜物百分の入を越ゆる不良米の輸移出を禁止する事となり、道令館在りては基準の程度は勿論内縣人を與として賣附金の募集に著手すると共に市々も發用し、所管町屋兒を差

れば假令委員會なりとは云へ、一般商賈との連絡保たれず、教育上の缺陷し全市は歡樂の巷と化し鮮山空前の賑ひを呈じたるが夜に入りては小學就中最も重要な事項は資格に於の新歡を慶望して止まず敷地買致するべきを以て痛切に近接の地に學

農尚南道にては二十日より石拔疎米、其他夾雜物百分の入を越ゆる不良米の輸移出を禁止する事となり、道令館在りては基準の程度は勿論内縣人を與として賣附金の募集に著手すると共に市々も發用し、所管町屋兒を差

すする豫定なりとの事なるが之れが
め同地方に於ける有志及び父兄は

各官署商會諸所等に於ては鮮
の差其を附し内地人も朝鮮人もの
間には會員の數に著しく懸隔あるを
加へつゝ有るは去る明治四十四年
の低級から省き内鮮人の間に多
朝鮮沿海貿易易狀能はるを越うて盛天
總督府よりの通牒

業税及び國稅)を標準とし可及
非常に満足の意を表し居れりと

丸電會社員大更迭

朝鮮瓦斯電氣株式會社にては道同内
平副新の爲め松崎克期、岡田電氣、
秋本輕鐵の名主任尾屋技師以下數名

十一月十一日

二名列席會長（退長官）不在に
つき篠田部長、會長代理として議事

薩南新各沿岸地北に鹽業地よりの沿
 海貿易城んなる釜山所在の商業會
 議所に於いては各關係地に於ける移
 出入狀況を調査せんとするも現下
 に著手したる次第なれば認可申請證
 明の勞をとりたり

山に於ける御大典記念事業としての

中開會朝鮮、業會議所聯合大會
 にて沿岸貿易統計事務復活の件を提
 議し南滿一致を以て決議の結果總督
 に見んとしたるに不幸歐洲の戰亂とな
 り暫時事業の中止の姿となりたるが
 目下戰亂中とは云ひ乍ら經濟界の前
 途又た十四日には盛大なる大祭を執
 行する者きと切ら

は小手調べのに餘興を催し第二日十
六日は愈々本式となり假装連は或は

正四年四月三日、今日、
宛請の次第有之候處石は今既稅
關に於て該統計を調査する事に決
定候に付御了相知成度依命此段及
び通知候也

行き大體の方針を定むる筈なり

釜山鎮小學校
愈々新設されん

要君の反對を排して晴衣を引張り出
し小半日を費しドウツラ嬢姿も出来
ヤツト練り出した午後朝來泣き出さ
むばかりの天空は俄かに闇く午後二

歳を三唱された連中も、酈からざりし
翌十七日即ち餘興第三日は稍々寒氣

の運に至るべく當日附議せらるべき
議案は何れも平壤商議の根
本を確立する重大問題な
斯く遠隔の地に在りては學校と家
族無し父兄は何れも不安を感じつ
有りしに昨今來埋立工事の進捗が
各所の餘興連中は早朝より身仕度
を調へ假行列 薩屋臺其他色々思ひ
の便向を察し終日市街を練り廻

増したるも 朝來晴大なりしかば

校普通學校主權の提灯行列ありて

[illegible]

大正五年

國民日記

『日記界の霸王出づ』

「我等は日本國民である」と云ふ自覺は我等が無二の光榮であり誇りであります——此光榮と誇りとを毎日自覺して國民としての責任を果たさしめんが爲に『國民日記』と云ふものが出来ました——『國民日記』の優美なる體裁は世界に卓越せる我日本の自然の如く——堅牢無比なる其製本は天下無敵の大和魂の如く——其充實せる内容が古今東西の智識を網羅して餘蘊なきは恰も日本の文明が世界のあらゆる文化の粹を抜きたるが如し——『國民日記』は從來有り觸れた日記のやうなものではありません——眞に國民の爲に作られた國民の日記であります——


定價 金四十五錢 郵税 金八錢

大賣捌所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

町田野國總下
造釀門衛右郎七木茂

店約特城京
目丁一町治明
商野牧

番三五二話電



損の中年はる誤を擇撰の油醬
油醬クハキ品絶の—唯東關へ給み試
石千二萬六額年りた冠に國全高造釀
りけ基に力買購の大最は高造釀の大最
證實の越優質品は力買購の大最

[illegible]

第五十窟

早川貞水口演

[illegible]

全國支部長募集
 他に類例なき唯一高貴の記念品頒布
 希望者興券五錢添申込の事規則送る
 東京市西區平河町二ノ八
 御即位大禮奉祝會
 大日本忠愛義會

潤煙草になる薬

さん病
 多
 年
 の
 方
 困
 る
 方
 漫
 掛
 る

大澤博士の禁酒論進呈
 本館 大坂市朝南通二 森田商店

さん病
 多
 年
 の
 方
 困
 る
 方
 漫
 掛
 る

美人


「自宅で人知れず秘密に治るフシギの
お薬ありと只一劑を飲めば即ち手三錢送れる
武蔵急電」
「やういふ言ひはやむ」

陸寸五分 婦九寸五分
腰合△六枚 送料共四角
拾八郎特拾玖丸
十五號

切手は、割増大阪中之見二一 美泉堂

▼月やく

月やくと云ふ他、藥を用ひ効なく、月心配の方
東屋にて「活用法」を私方へ三封び手紙申上り
や雲なく不慮に病に侵され、知らずして
市京市四角岡通町、阪陽発刊。森田 居



 二天特長
 品質卓絶
 最も廉價
 於全廣貨會
 著名實業之類
 賣行盛仁

三田プロ製造合名会社製造
發賣元大塚製菓株式會社
三田商店


倍々發展



ひせん
芳以せん水
平芳堂
大坂市西區新町通三丁目



成功者レタ!



腦力は無限なり。

腦健全なれば如何なる事業も成功す。

腦神經衰弱症の諸君!

今スグ健腦丸の服用を始め給へ。

国産 特長


● 腦光血脈閉塞 本劑を少量堅持
● 腦腔炎耳鳴 藥を少量堅持
● 通上症 腦腔炎 藥を少量堅持
● 神經衰弱 健忘 藥を少量堅持
● 腦貧血 便秘 藥を少量堅持
● 中風 腦腔炎 藥を少量堅持
● 中風 腦腔炎 藥を少量堅持

一週分 二週分 三週分 四週分 五週分 六週分 七週分 八週分 九週分 十週分

房藥會商平丹 舖本
京東 阪大
す費販次取に店經外海國全

目録送呈
 ◎完全無比の覇王グラス萬年筆
 實川經濟の
 米國バレット會社製
 真正十四金ペン先付
 最新インキ止式
 京坂本町二丁目電話 四四五五番 振替東京二五六番
 錦本藤次郎本店
 諸君御銀行會社其他團體にて多數御採買の向へは直に割引仕候

お化粧は高尚なる



濃化粧

高尚にして美しくしきお
 レート煉白粉は生地が細まか
 在で御座います。特に「クレ
 ー」

御 度 調

粗 化 淡 粗

粗 けは目難るやうな鮮かな濃
色の至極白いレート煉白粉は
おつけになれば上品ですが今
エリー」を引でレート水白粉

大 部

素顔は「レイトフード」をお用ひに
素顔の美を整へる根本は「レイト」を附けるのが一番宜敷い其上

禮
用

雲の上まで

[illegible][illegible]

興丸 十一月廿八日日本浦發
公州丸 十一月廿三日未館發

公州	十一月廿六日木朔發
宗信丸	十一月廿六日丁未發
海州地客陸奥出、關原廻行	
江原丸	十一月 日丁未發
芝罘、大連、青島行	
龍水丸	十一月廿七日丁未發
普州丸	十一月廿二日
各渡船同本港行	

化粧の順序

く付き伸び附りがよく濃淡は自由自
 んムレート」を下地にお引きになつて

全 州 丸	毎 日 午 前	七 川 番
平 安 丸	十二月十九日	群山發
皮燒門司	本陣門司	若松行
大黒山	本陣山行	

共同汽船出帆

出帆後身命金銀等貴重品を運搬せしめ

化糞が出来るので御座います。
 淡化粧の時に「透明レート」で溶いて
 少し濃うせようと思へば「レートヂ
 をおつけになる」と高尙でゐいます。

平尾 賛

元山出帆
 十一月廿一日午後二時入
 元山出帆
 十一月廿一日午前九時入
 元山出帆
 十一月廿一日午後九時入
 元山出帆
 十一月廿一日午後九時入

「ト」洗粉で洗ひ「乳白化粧水シート」
ホンノリ色白くするには新式美容
なるのが殊によりしう御座います。

平商商店

西割津海岸名産を越て岐阜県
第三回十一月月出前八割
同十二月月出前八割
阿波國共一縣株式會社
仁川代官店山下町番部
香山代官店四七番部
香山代官店六二口同番部
供出所東京市豊島区
河村運送云々

白粉
は
販

汽船釜山出帆廣告
○同司、神戸、大阪行
小倉丸 十二月十四日午後五時出帆
○元山城津浦廻行
小倉丸 十二月二日午後十時出帆
○同司、神戸、大阪行
立神丸 十一月廿日午後五時出帆
○元山城津浦廻行

あいよう かたじけな

愛用を辱ふせり

立鶴山 新津 十二月九日午後十時出帆
○元山 西湖津 新津、城津、浦津行
第三學年九 十二月一日午後九時出帆
○門司 宇品、福日、大坂行
第三學年九 十一月三日午後六時出
○佐須奈、嚴阪、壹岐、博多行
天眞 九月廿一日廿六日 午後十時
出帆

[illegible]

刊朝日二十二
(號十五百九千二第)

[illegible]

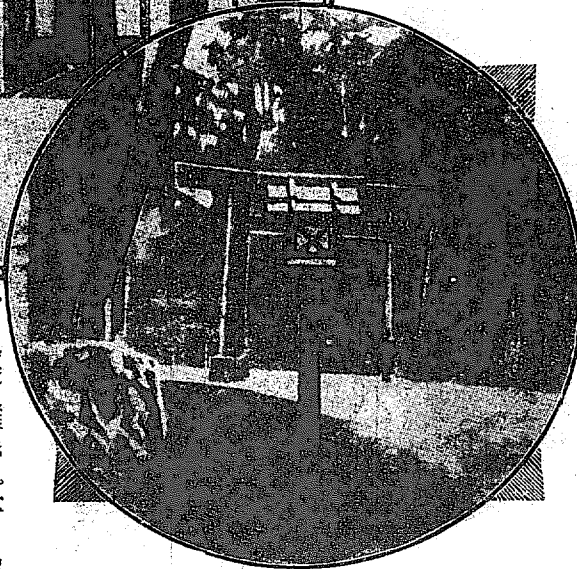
德富猪一郎恭記

大正四年十一月十七日午後七時二十分、二條御宮に向ふ、大變夜の情に、參拜せんが爲め也。途中提燈行列の大小隨從に出會ひ、萬家の聲を浴び、中には絹帽、蓑笠と呼び、糊糊の上に提燈を振つて行へり。流石の溫柔なる京都人士も、何となく血が湧き來りたるが如し。

(イ) 伊勢神宮神苑御手洗所

(七) 行在所(伊勢神宮司廳)

代迄、珍饈す可きもの也。子等が之をうして、尙は饌案として泥逆の裡



け、弓を負ひ、胡鉦を挟み、鉦を取り、鉦を帯び、而して最中に鉦を舞はし、次に鉦を舞はす。其の音樂の高古にして、舞蹈の優長なる、何となく朝鮮の舞樂を聯想せしむるものあり。隋唐の古樂、支那に亡びて日本に存す。是亦た皇化漢濟の餘澤にあらずして何ぞや。

但だ坐席の設備に於て、遺算ありしものゝ如く、階殿中中に於て、階殿する能はざるもの少からざりて、子弟の頗る同情に堪へざる所なりし也。

然も二千名を超えたる階殿者を、一

邊かに、龍顏を拜し奉れば、天顏喜近臣如の一句、宛も此際の實情を察する。

大體考へ開始は、番時を過ぎたりと思はる。是は君が代の奏歌と與に、出朝、入朝與に、龍顏を咫尺に拜するを得たるを、無上の光榮に信ず。恐れながら連日の御威儀に、何等御疲勞の御氣容を見受け奉らず、而して其の御様子の何となく、先帝御遺教はせ給ふを見て、只天顏の双眼に浴るゝあるのみ。吾人只だ天顏の、我が皇威に無量

を拜持し、離宮の門を出でたるは、既に十八日午前一時半に近かりき。歸來天を仰げば、星斗闌干、京師市民の過半は、未だ眠らざりし也。乃ち直ちに其の視聽を記して、我が諸君に認げ、其の光榮を頌つと云爾。

大正四年十一月十八日午前三時

朝鮮銀行の使命(一)

日支新條約の成立と共に、支那に對し帝國の經濟的勢力を伸張せしむる爲めには、滿蒙開發と金融機關の整備が第一である。然れども、是等の地帯たる帝國の國境に在り、且つ之の開墾は凡そ外國人に屬し、邦人の經濟的資力を固くするに當り、其の地帯に漸次根柢の固きを加へるを見ることは難い。従來關東州地方に於ては、我に居住旅行の便を爲す爲めに、農工商其他の事業を營むに當り、幾多の障礙を存し、爲めに邦人の展を阻礙せしこと甚だ夥しとせば、

海運業
大阪府

海運業
大阪府

[illegible]

現今の生産

現今の生産

將來の進

に於ける工産調査は明治
開始して之を眼始し爾後年
續け其結果を發表し以て一
に資し來れり而して調査
を見るに品價によりて調査
によりて其產額時に消長なき
と雖も之を全般の上より
は逐年の實なる發展の歩
あり、今大正三年中の預知
とし重要品の概況を略述す
如し

織物 總產額六百二十六萬
にして之を前年に比すれば總
步の増加に當れり而しては
に比し若干の減少を見たるは
に縋布の約十一萬圓を減じ
て於ける現生糸價暴落の餘波
一時の現象に過ぎず、縋布
の如きは何時にも増加を示し
機械業發展の結果見てもあ
酒類 總產額四百六十六萬餘圓
葡萄酒は内地移入酒の競争ある
類に著しく増加を認め得ざ
るが其產額は前年に比し約
五割の増加を示せり

遙引ながら御見舞申上候
高塔を見ね淋しさや冬の月
火事場想き雪圍街は寂しか

平 張

雄子

御幸運の愛煙家には

1

法方韻

品名	賣出
□十圓	□カ □百 □ト
□神代	□ス □八 □島 □煙

☐二 鷹 ☐常 盤
☐コンケスト

賣出期	抽籤施行日	景品引換期間
自大正四年十一月一日 至大正五年一月十五日	自大正五年一月二十五日 至大正五年二月十五日	自大正五年一月廿五日 至同年二月末日

右賣出品中何れの品にても一包中に各品
抽籤引換券一枚宛封入して有ますから左

品方 法

に達しますれば一枚の抽籤券を御引換を
今回の賣出は從來の方法とは其趣を異に
ール分に達して一枚の抽籤券を得られる
れなき様御注意を乞ふ

●金剛二十枚 ●しらぎ二十枚 ●日本兜
●百圓三十枚 ●十圓四十枚 ●一圓
●菊水二十枚 ●八島二十枚 ●スワン
●神代二十枚 ●二鷹二十枚 ●常盤
●コンケスト五十枚

景品種目

本
 十八金側時計
 ウオルサム會社製

壹等	十七本	額面十五圓債券
貳等	五十本	額面五圓債券

參等	四百本	莫力小シヤ
四等	七百本	卷煙草入

五等	千五百七十本	鞞
六等	二千四百本	西洋手拭

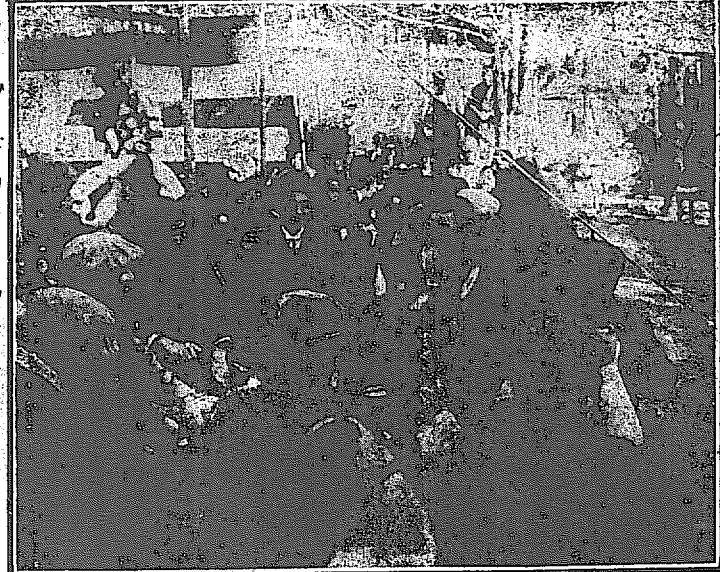
七等	三千三百本	金剛煙草
八等	五千五百本	しらぎ煙草

合計一萬三千九百三十
抽籤券は最寄御買付けの小賣店にて御引替被下

千五百圓の割増金債
付貯蓄債

御幸運の愛煙家には

捲煙草製元 京城 廣 汪 商 金



兎狩り (歸後の大野原に於て)

肥後流の大兎狩

老幼あつて西三條を狩る
林東拓理事 吉田朝野事務の弱音
新聞には來年の豫想を拜借のこと
肥後流の大兎狩は、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

奇抜な猛烈な競争

見物席から父さんお勝ちよ
肥後大野原の秋の狩り、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

観衆一萬

昨日の自轉車競走
昨日の朝、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

取るのは泥棒、取られるのは泥棒

播磨の空襲、取られるのは泥棒
昨日の朝、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

見物席から父さんお勝ちよ
肥後大野原の秋の狩り、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

一千八百戸に火災改造を命ず
火災改造の爲め、鐘路署の處置
肥後大野原の秋の狩り、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

不敵の少年講
金を持て逃す
肥後大野原の秋の狩り、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

京日案内
普通
肥後大野原の秋の狩り、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、



百圓札の利権を寄越せ
肥後大野原の秋の狩り、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

愛國毛布
肥後大野原の秋の狩り、肥後大野原に於て、朝の四時より午後四時までの間に、大野原に立寄り、小兎を狩る。一日を盡し、高野原に狩る。同日夜三時半、

恩給金即時支拂... 各種公告... 遺失... 尋人... 招集...

